

## 助産学実習Ⅰ

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座		
対象学年	4	区分・時間数	実習 75 時間
期 間	後期		
単 位 数	2 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

妊娠期、育児期にある対象者への病院等以外での助産ケアについて、その実際を体験的に学修する。また、開業助産師の助産活動の実際を通じて、助産師の専門性発揮に向けたあり方や関連機関との連携の持ち方について理解する。具体的には、各自治体の保健センター等で実施されている地域母子保健の実際（家庭訪問、母子健康手帳交付、両親学級等）、職能団体が実施する地域母子保健活動および助産所での助産ケアの実際について学修する。

### ・教育成果（アウトカム）

妊娠期、育児期にある対象者と病院外の場で会い、そのニーズを体験的に知ることができるようになる。また開業助産師の活動を体験的に学び、助産師の専門性を発揮した具体的な活動内容と関係機関との連携の状況を知り、地域における助産活動の広がりについて考えることができるようになる。

#### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：2, 3, 4, 5, 7, 8

### ・到達目標（SBO）

1. 各自治体での地域活動の実際について学ぶことを通して、助産師の役割を考えることができる。
2. 職能団体が実施する地域母子保健活動に参加し、地域で暮らす妊産婦とその家族のニーズを知り、助産師の役割について述べることができる。
3. 助産所での助産ケアの実際を体験的に学び、助産師の専門性を発揮した助産活動とその実現に向けた関連機関との連携のあり方を知ることができる。

・授業日程

【実習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
11/1 (月) ～11/26 (金) ※うち2週間			成育看護学講座	蛎崎 奈津子 教授 遊田 由希子 特任准教授 西里 真澄 講師 高橋 淳美 助教 山本 洋子 助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体における地域母子保健の実際（家庭訪問、母子健康手帳交付、両親学級）</li> <li>・職能団体が実施する地域母子保健活動への参加</li> <li>・助産所での助産ケアの実際</li> </ul> <p>※詳細は、実習要項に記載する</p>

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全	成田伸 責任編集	日本看護協会出版会	2020
教	助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア	森恵美 責任編集	日本看護協会出版会	2020
教	助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア	町浦美智子 責任編集	日本看護協会出版会	2020
教	助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア	江藤宏美 責任編集	日本看護協会出版会	2020

・成績評価方法

実習記録 60%、実習態度 40%にて評価する。なお、実習態度については実習評価表に基づいて評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学習の具体的内容及び時間】

地域母子保健活動について、教科書や配付資料、ノート等で十分な復習を行った上で実習に臨むこと。実習終了後は、その日の振り返りと翌日の自身の課題を明確にすること。なお、事前事後学修は、少なくとも 60 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

提出された記録物等については、適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

助産師（別表 2）：臨地実習 助産学実習

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			